第２回「子どもと家族を応援する日本」 重点戦略検討会議「地域・家族の再生分科会」	資料４
平成１９年　４月　９日	

石川県小松市説明資料

（石川県小松市）

「子どもと家族を応援する日本」重点戦略検討会議

第２回家族・地域の再生分科会資料

平成１９年４月９日

石川県小松市市民福祉部長　　加藤正峰

１　小松市の子育て支援の概要　・・・・・・・・・・・・・・　1

２　マイ保育園登録制度について　・・・・・・・・・・・・・　2

３　マイ保育園登録者数　・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

４　マイ保育園の問題点・課題　・・・・・・・・・・・・・・　6

５　マイ保育園制度を通じてわかった家庭の状況　・・・・　7

６　孤立・閉じこもり家庭へのアプローチ　・・・・・・・・　7

７　課題解決への方策　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

８　おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

１　小松市の子育て支援の概要

日本三大子供歌舞伎の一つとして２４０年間脈々と受け継がれてきた伝統芸能、小松の曳山子供歌舞伎。歌舞伎１８番のうち「勧進帳」の舞台「安宅の関」は小松の地です。

当市は“歌舞伎のまち、こまつ”を標榜し、毎年５月に花道を備えた「こまつ芸術劇場うらら」において全国子供歌舞伎フェスティバルｉｎ小松を開催しています。

由緒ある歴史と文化を大事にしながら、次代を担う子供たちの健やかな成長を願い、“ひと・まち・みどりが輝くこまつ”を目指し、子育て支援に努めています。

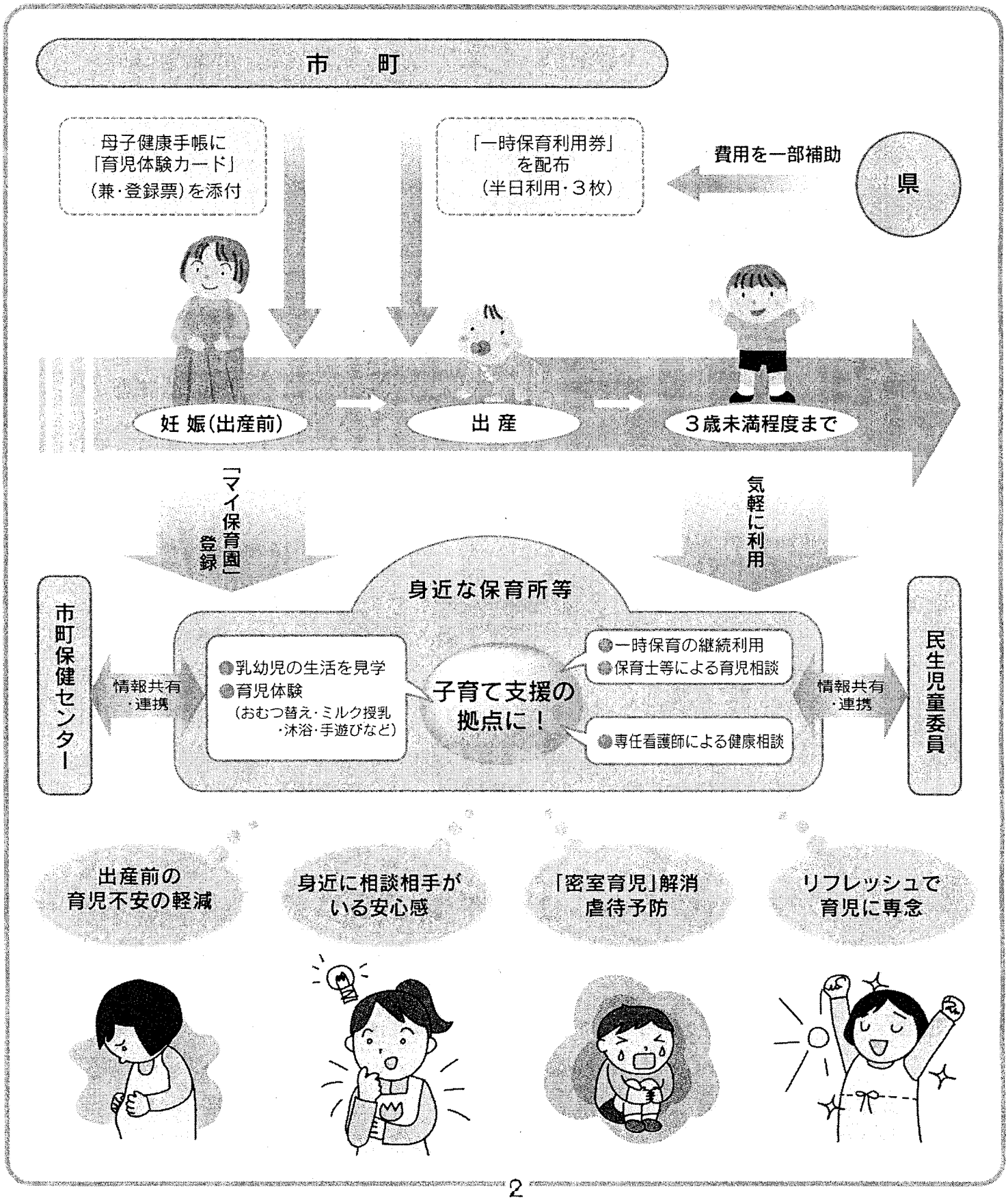
歴史と伝統を背景に、地域の子育て力も旺盛で、「お寺こども教室」の開催や、登下校時の児童の安全確保のための老人クラブ会員が中心となった「わがまち防犯隊」の活動など、地域の支援もいただいています。

また、医療費負担の中学卒業までの助成や市内全小学校区での学童保育の実施、不妊治療への新たな助成や妊産婦の健康診断の拡大、休日夜間の小児科・内科の急病診療所開設等々、ハード・ソフト両面にわたる少子化対策を実施しています。

一方、平成１０年北陸三県で初めて「男女共同参画都市」を宣言し、全国的にも先駆けて女性の社会参画に取り組んでいます。更に、企業へ男性の育児休業取得促進や次世代育成支援行動計画の実行なども働きかけ、男女共同参画の観点からも子育て支援を実施しています。平成１３年７月から４年間、厚生労働省から本市に女性助役として出向いていただき、小松の男女共同参画や子育て支援策の向上に取り組んでいただきました。

マイ保育園登録制度

～保育所等を子育て支援の拠点に～



2　マイ保育園登録制度について

（1）目的

核家族化や都市化の進行により、乳幼児とふれあう機会が減少しているため、子育て家庭の育児の負担感・不安感が高まっていると言われている。各地域に設置されている保育所等を身近な子育て支援の拠点と位置付け、保育士等による育児相談や一時保育の利用を通じて、妊娠時から特に３歳未満のすべての子育て家庭の育児不安の解消を図る。

（2）登録できる者

妊娠し母子健康手帳の交付を受けた者又は出産した者

（3）登録

登録を希望する者は，市内の保育所の中から希望する保育所を選択し登録を行う。

（4）事業内容

ア　育児体験　　保育所見学やおむつ交換、授乳、沐浴、離乳食づくりなどの育児体験を行う。

イ　一時保育　　出産時に配布した一時保育利用券（半日利用）３枚による無料での一時保育を実施する。

ウ　育児支援　　育児相談や育児教室を実施する。

（5）事務

ア　登録園は、登録の際登録者に対し育児体験カードを交付するとともに、登録者毎のケース記録簿を作成し、体験や指導状況を記録する。

イ　登録園は、登録者に対して積極的に育児教室など情報提供を行う。

ウ　市は、登録状況を定期的に確認することとし、未登録者へ勧誘を行う。

エ　市は、必要に応じて保健師、児童委員等が家庭訪問を行うなど、登録者の状況把握に努めるとともに、関係機関との連絡を密に行う。

☆　保育園の声

・　気軽に保育園を利用してもらえる。保育園に関心を持ってもらえる。
・　個人情報保護の関係から出生状況がわからない中、登録していただければ何らかの支援ができる。
・　妊婦や０歳児を持つ家庭の状況が把握できる、入園希望に繋がる。
・　産前の利用者が少ない。
・　孤立しがちな家庭には心強い応援の場。毎月マイ保育園広場を開催している。
・　保育園が地域の子育て家庭の身近な存在となるため、地域に働きかけたところ町内の協力を得ることができた。
・　一時保育の増加等、保育士の配置が困難な場合がある。
・　一時保育のみの利用者が多い。入所前の駆け込み利用が多い。
・　登録してもらうだけでなく、一歩踏み込んだ取組が大切である。
・　相談に乗りやすく、虐待、ひきこもり予防にも繋がる。　　ｅｔｃ

☆　利用者の声

・　気兼ねせずに預かってもらえる。
・　子育て支援情報を紹介していただいた。子育てサークルに参加できた。
・　いつでも相談や見学することができ安心できる。
・　保育園が企画する会に参加し子育てについて教えてもらい、また親同士の交流ができいろんな体験談や知識を得ることができる。
・　子育てに悩んだときに相談できてよかった。
・　保育園がどんなところか理解でき、かつ親も子を慣れることができる。
・　一時保育で自分の時間を持ちリフレッシュでき、更に子どもがかわいいと思えた。
・　一時保育で兄弟の遠足や授業参観に参加できた。
・　授乳・離乳食の与え方・調理の仕方・おむつの替え方など知ることができた。
・　育児ノイローゼになりかけたが、マイ保育園を利用してほっとした。

ｅｔｃ

3　マイ保育園登録者数

公私区分		実施施設名	定員18年度	17年度末登録者数	17年度利用券使用数	18年度末登録者数	18年度利用券使用数	18年度見学者	18年度相談者
私立保育所	1	双葉保育所	90	10	3	32	15	3	5
	2	大和保育園	285	10	9	29	51	9	19
	3	安宅保育園	150	7	2	10	2	1	0
	4	長田保育所	60	5	1	8	7	0	0
	5	高堂保育所	45	3	1	7	2	42	10
	6	千代保育所	60	5	0	9	5	2	0
	7	白江保育園	90	4	0	17	8	6	2
	8	今江保育園	240	9	3	18	12	1	0
	9	御幸保育園	270	12	3	24	29	35	22
	10	末佐美保育園	80	2	0	8	15	6	3
	11	粟津保育園	140	1	0	10	11	12	9
	12	こばと保育園	110	18	0	34	50	39	41
	13	粟津温泉保育園	60	2	0	4	6	0	0
	14	あおば保育園	120	7	3	20	14	11	2
	15	南陽幼保園	85	4	3	10	8	5	0
	16	河田保育園	150	8	0	14	16	6	8
	17	牧保育園	240	9	0	24	14	67	0
	18	よしたけ保育園	330	30	0	56	34	193	47
	19	あしのめ乳児保育所	45	8	4	15	29	7	3
	20	松陽保育園	140	7	1	19	40	21	26
	21	舟見ヶ丘保幼園	165	10	0	32	26	75	36
公立保育所	22	梅田保育所	35	1	0	2	1	4	2
	23	月津保育所	165	15	4	21	31	11	15
	24	矢田野第一保育所	135	5	0	19	13	10	0
	25	矢田野第二保育所	75	7	0	6	18	2	2
	26	那谷保育所	60	0	0	2	7	0	0
	27	中海保育所	90	4	0	9	9	0	0
	28	原保育所	30	2	0	4	2	0	0
	29	金野保育所	45	3	0	7	5	0	1
	30	瀬領保育所	60	0	0	1	3	0	0
	31	蓮代寺保育所	70	1	0	2	13	0	0
	32	第一保育所	130	10	2	14	27	2	0
	33	苗代保育所	150	8	0	26	19	18	7
	34	西尾保育所	30	1	0	0	0	0	0
	35	ひかり保育所	120	6	0	8	6	0	0
	36	犬丸保育所	90	8	0	13	10	0	0
	37	西軽海保育所	120	7	0	8	31	0	0
	38	木場保育所	60	2	0	4	9	0	0
総　計			4420	251	39	546	598	588	260

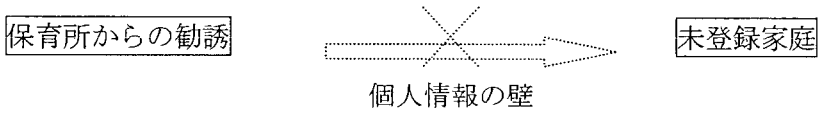
私立保育所計	2955	171	33	400	394	541	233
公立保育所計	1465	80	6	146	204	47	27

備考　小松市の出生数　　平成17年　976人　　平成18年　1，049人

4　マイ保育園の問題点・課題

○　登録しない者へのアプローチ

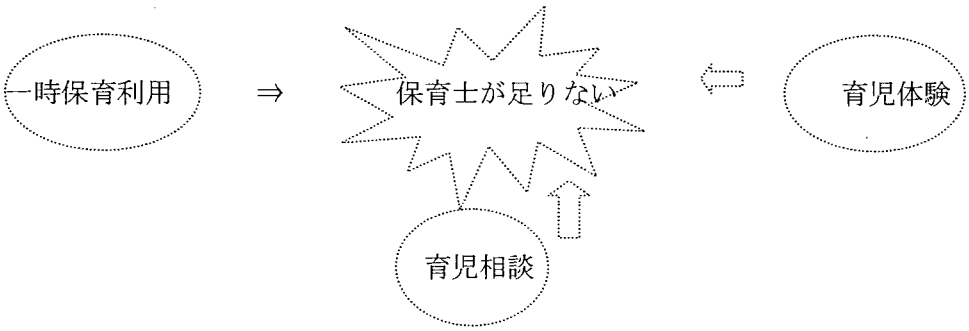
本来マイ保育園制度では、登録しない者への勧誘は行政の仕事となっているが、実際は身近な（地域の）保育所から呼びかける方が効果があると思われるが、現実には把握がむずかしい。



登録している家庭は、どちらかというと子育てに積極的な家族であると思われる。むしろ未登録家庭に孤立化や閉じこもりの要素があるとすれば問題である。小松市のような地方のまちでも、アパートや転入世帯の家庭状況まで把握できないのが現状である。

○　担当保育士の不在

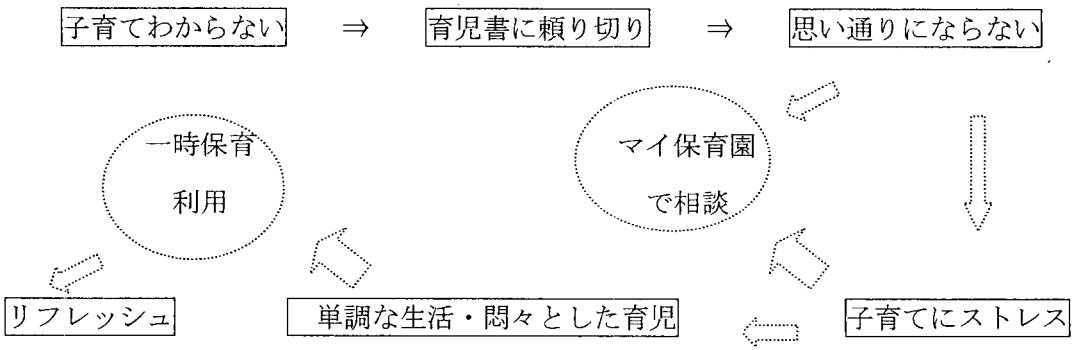
どの保育所も限られた保育士数で保育を実施しているのが現状であり、制度が浸透すればするほど本来業務に支障がでてくる。



5　マイ保育園制度を通じてわかった家庭の状況

子育て家庭の多くは、核家族化の進行や情報化の進展により、親や子育て経験者と接する機会が少なく、専ら子育て情報の入手先は育児書等のマニュアル本であることが意外と多いことが伺えた。

昔なら普通にわかってたことが全くわからない親も多く、育児書は読むものの実際の具体的な関わり方がわからない、育児書どおりにならないことに戸惑いや苛立つことが多いことがわかった。



6　孤立・閉じこもり家庭へのアプローチ

マイ保育園登録者で利用しない者に対しては、電話やはがきでのイベントへの勧誘等は保育園から実施している。また、一部の保育園では、家庭訪問を実施している。

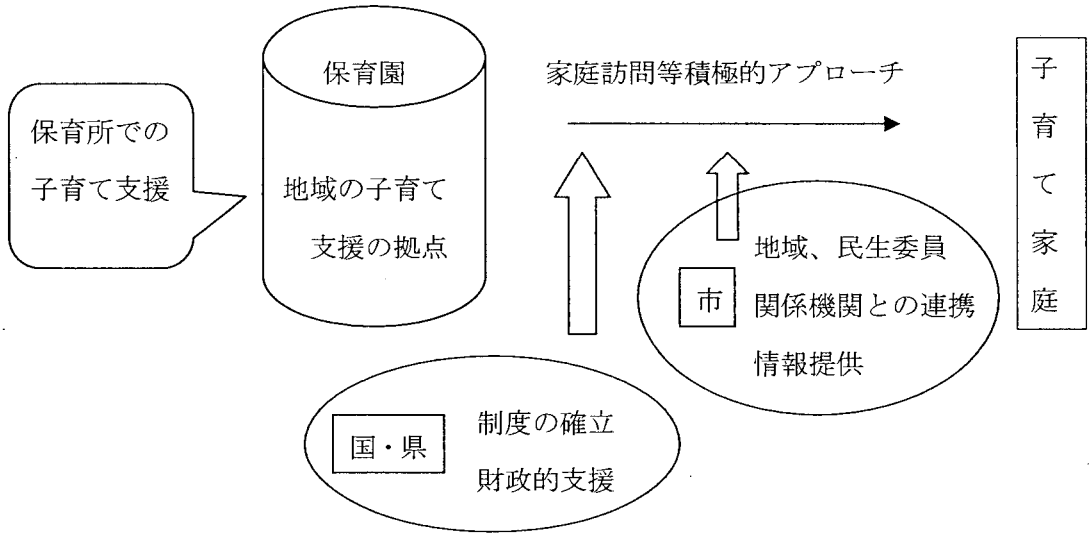
直接出向くことにより、親子とふれあうことで、信頼関係を構築することも可能となり、その後のアプローチもしやすくなる。

未登録者へのアプローチは、保健師による乳幼児の訪問事業や検診等で接することはできるが、きめ細かい子育て支援を提供するには地域の子育て支援の拠点となるべき保育園のアプローチが望ましい。

未登録者の把握は、民生委員や児童委員、地域との関わり合いにおいて把握できればよいが、先にも述べたとおり困難な状況である。行政から保育園に対し未登録者を提供できる仕組みが必要である。

7　課題解決への方策

―――― 保育園が真に子育て支援の拠点となるために ――――



マイ保育園登録制度を通じてわかったことは、保育園が単に保育の実施や保育園で行う子育て支援を行う機能だけでなく、未就園児の状況を把握したいとの思いが強いことである。実際、未就園児家庭へダイレクトメールの送付やイベントの勧誘を実施している。

また、地域の機関・施設としての意識があり、地域住民との関わり合いを常に保とうとしている。

保育園は、これまでも地域の子育て支援の拠点として住民に十分認識されており、子育て家庭へのアプローチは比較的無理なくできるのではないかと思われる。保育園が子育て家庭へ家庭訪問等積極的に関与することで、育児不安の解消、早期の虐待予防、更に他の子育て家庭と触れ合うきっかけともなり、真の子育て支援の拠点となることができる。

8　おわりに

最後に、これまではどちらかというと親の子育てを軽減する施策が主であるが、現場の意見として、現在の親は自分中心であることを感ずることが多く、親子の愛情を高める、子育ては楽しい、喜びを感じる施策の取組が必要との声も聞かれました。

子育ての中心は親、この基本はいつの時代も不変のものだと思います。これからも更に充実した子育て支援策をお願いし、ともに考えていきたいと思います。